

【平成16年度専修学校先進的教育研究開発事業】

事業名	e-Learningと学生個別ケアシステムを活用した自律型語学学習システムの開発		
学校法人名	学校法人佐野学園		
学校名	神田外語学院		
代表者	佐野 隆治	担当者・連絡先	今岡幸美 03-5296-7981
<p>< 事業の概要 ></p> <p>学生間の英語習熟度の差異が大きく、学習効果を上げるためには個別指導が必要であるが、その効率と有効性を高める手段として学生学習状況のデータベース構築、及び英語基礎力向上を目指す学生が、個々の到達目標、自分のペースに合わせた学習を可能にするE-Learning システムを開発する。</p> <p>< 成 果 ></p> <p>本事業の研究開発の柱である 学生個人カルテ・データベースの構築と導入・運営、及び TOEIC E-Learningの構築と導入・運営に向けて取り組んで来た結果、 については導入前のトライアル段階、 については構築の最終段階に至っている。この2つの柱は学生の学習活動における自律の育成を補助するためのツールとなるシステムであるが、共にツールの構築に時間が掛かり、1年間で導入から運営結果まで終了し、この書面にて報告することは残念ながら出来なかった。しかしながら、個人カルテ・データベースについては、トライアルに参加した委員・教員及び学生から、提案・助言などのフィードバックをいただいた。その考察概要をまとめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員が授業シラバスを明示し、学生が授業のフィードバックを返すことで、毎回の授業が教員や学生によって丁寧に、大切に扱われ、それが授業の質の向上につながる。 2. 本システムの操作方法は概して分かりやすいが、学生や教員が授業のツールの一部として認識するためには、PCが身近に使える環境の有無が大きく影響する。 3. 個人カルテ・データベースの意義や目的を理解していない教員や学生にとって、データの入力に苦痛と認識される。両者による十分な理解が不可欠である。 4. 学生に「自律」という変化を期待するためには、教員・学生によるデータの「活用」とその「継続」が必要である。具体的には、学生が授業についてインプットし、それによって教員が授業に変化を起こし、それによって学生は授業に参加しているという自覚と責任を感ずる、という連鎖が大切である。 			

なお、TOEIC E-Learning は、神田外語学院が長年の経験を基に、キャラクターが対策KNOW - HOWを実際の授業形式で展開するコンセプトで作成して来た。ネット上のアドバイザーに、いつでも質問のメールを打てる体制と共に、2005年度6月より北星学園大学、沖縄大学、神田外語大学、トラベルジャーナル旅行専門学校の各校にてトライアルを実施する。来年度も本委託事業を継続して申請し、今年度開発部分のトライアルと新機能の付加を行い、完成度を上げたい。